



Les Amis de L'Orgue de Tokorozawa MUSE

みなさま、こんにちは。このオルガン通信も久しぶりの発行となりましたが、素敵な夏を過ごされたでしょうか？私はこの夏フランスとベルギーで演奏会があり、ヨーロッパへ行って来ました。その一つ、パリのノートルダム大聖堂のオルガンについては裏面でご紹介します♪
暑さも一段落した9月は、木の葉の色も変化してよいよ秋の気配を感じさせてくれますね。所沢ミュージズでも、芸術の秋ならではの公演が盛り沢山です。9月30日は500円コンサート、10月15日にはオルガン特別講座（後期）、そして10月22日はホール・アドバイザーの松居直美さんの「下總皖一音楽賞受賞記念コンサート」と続きます。今回はその最初の2つをピックアップし、次回10月のオルガン通信では松居直美さんのコンサート特集をお届けします。

☆9月30日は500円コンサート☆

今年6月の500円コンサートは、オルガンの電気システムの故障によって延期になってしまいました。楽しみにいらして下さった皆様に大変なご迷惑をお掛けしてしまいました事を、この場をお借りして、心よりお詫びを申し上げます。

9月は私、梅干野安未が渾身の演奏でみなさまをお迎えますので、久しぶりのオルガンの響きをたっぷりとお楽しみ頂きたいと思います。

♪ **第1回目（11時開演）**：0歳児からのコンサートではオルガンの名曲バッハの「トッカータとフーガニ短調」をはじめ、お子様もご家族もみんなで歌いながら楽しめる手遊び歌「グーチョキパーでなに作ろう」ほか、盛り沢山の内容をご用意しました！



デュリュフレ

♪ **第2回目（14時半開演）**：午後は大人の皆様もオルガンの響きをたっぷりとお聴き頂けるプログラムとなっております。バッハのオルガン作品はもちろん、エルガーの名曲「愛の挨拶」をオルガン編曲で、そして目玉には、今年没後30年を迎えるフランス近代屈指の作曲家・オルガニスト、デュリュフレの秀作「アランの名による前奏曲とフーガ」を演奏します。フォーレと並んで「レクイエム」で定評のあるデュリュフレですが、オルガニストとしても名高く、グレゴリオ聖歌や教会旋法が織りなす音の色彩を自在に操る彼の作品は必聴です。

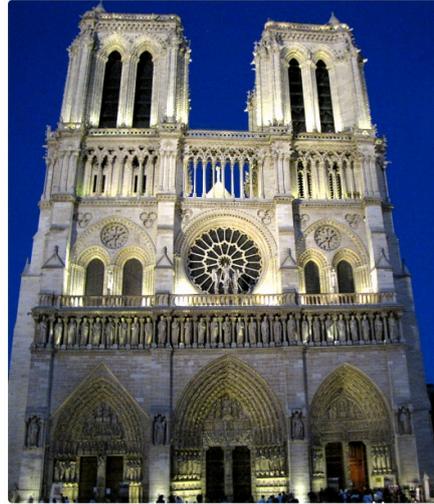
☆10月15日は特別講座（後期）☆

7月に行われた前期の講座に続き、後期の講座は更にオルガンの魅力を深く知る事ができる内容となっております。オルガンは、持ち運べない楽器であるがゆえに、その土地の風土や歴史から非常に大きな影響を受け、時代や国々によって興味深い変化が生まれました。後期の講座では、イタリア、スペイン、フランス、オランダ、ドイツといったヨーロッパの主要なオルガン文化圏を巡って、オルガンの画像を見たり、CDで実際に音色を聴きながら、その違いや形式についてご紹介します。きっと世界中のオルガンを巡ってみたいくなりますよ。

☆パリ・オルガンぶらり旅⑧ノートルダム大聖堂の巨大オルガン

ついにパリの中心・シテ島に構えるノートルダム大聖堂の登場です！ずっとご紹介したくてたまらなかったこのオルガン。パリ留学中、毎週のように足を運び、卒業試験もここで行ったので、私にとっては非常に思い出深い場所なのです。

この度、8月にこの大聖堂で演奏の機会を頂き、1年ぶりにパリを訪れました。昨今の情勢のせいか観光客も少なく、警官や兵士で溢れ物々しい気配が漂っているものの、やはり大聖堂の前の広場には相変わらずの人だかり。ミサに、見学にと、人々が長い列を作っていました。ヴィクトル・ユゴーの不朽の名作「パリ・ノートルダム」の舞台としても有名で、いまでも年間2000万人が訪れるパリの名所なのです。



☆オルガン INFO☆

2013年に着工850周年を迎え、ゴシック建築の至宝と讃えられるノートルダム大聖堂の中に入ると、高い天井とステンドグラスから差し込む美しい色彩に目を奪われます。祭壇の左右には美しいバラ窓が、そしてその祭壇を正面に見ながら後ろを振り返ると、そこには長い歴史を持つオルガンが、遥か高く聳えているのです。

このオルガンの起源は実に13世紀頃まで遡り、15世紀中旬に今のバルコニーに置かれて以来、クリコやカヴァイエ=コルといったオルガン製作の名匠によって常にその時代の最先端をいく楽器になるよう改修が重ねられていきました。現在のオルガンには手鍵盤がなんと5段もあり、音色（ストップ）は約115種類、8000本を超えるパイプを有する巨大な楽器で、2014年に約20年ぶりの改修を終え、演奏台もピカピカの新しいものになったばかりです。歴代にはダカンやヴィエルヌといった50名に及ぶ著名なオルガニストが名を連ね、現在も最新の響きをもつオルガンのもとで、オリヴィエ・ラトリー氏やフィリップ・ルフェーヴル氏ら正オルガニストによって豊かな典礼音楽が紡がれているのです。毎週土曜日の20時から入場無料の演奏会が行われていますので、約800年の歴史をもつオルガンの音色と大聖堂の響きのマリアージュを聴きにいらしてはいかがでしょうか？

☆トン・コープマン氏の公演レポート☆



6月26日にはコープマン氏によるオルガン・リサイタルが行われ、沢山の皆様にお越し頂き、本当に有り難うございました。あの伝説のコープマンが聴ける！と会場が熱気に包まれていたように感じました。来日中の多忙なスケジュールにも関わらず疲れを見せることなく軽やかに、そして爽やかに、凝縮されたエネルギーが音の言霊となって会場を包み込むような演奏でした。（写真:リハーサル中と終演後の様子）